選考委員賞

生き物の母、ナウシカ

六本木中学校　池田　美咲

「風の谷のナウシカ」―宮崎駿さんの作品であるこれを知らない人はいないだろう。しかし、「風の谷のナウシカ」の漫画を読んだことがある人は、映画を見たことのある人に比べて俄然少ない。漫画では、映画だけでは語られなかった「命」と「環境」について描かれている。それらに関わる漫画の一部分を紹介しよう。

ナウシカの世界にはマスクを着けなければ、一瞬にして猛毒で死んでしまう場所―腐海が存在する。腐海とは滅亡した過去の文明に汚染され、不毛と化した大地に生まれた、新しい生態系の世界。そんな恐ろしく危険な腐海に出入りしている少女こそが、あの有名なナウシカである。ナウシカは不毛な壁に立ち向かい、様々な困難に次々と出会う。そこで、映画では兵器としか説明されなかった「巨人兵」の母になる。漫画版では国家間で収拾のつかなくなった争いに対し、巨人兵が下す裁定が争いを止めるにはすべてを無に帰すほかないと、文明が発展しすぎて困り果てた昔の人々が裁定した結果が「巨人兵」であった。「調停者にして裁定者」として生み出された「巨人兵」は全身から生物に有害な毒の光を出しながら、それより弱っていくナウシカとともに昔の文明の技術が詰まった場所を目指した。そこに目指す過程で、今の人々がたとえその技術を使い、世界を浄化したとしても、毒とともに生きている人々では生きてはいけないことがわかる。昔の文明の技術が詰まった場所に入ると、そこには昔の文明の知恵がおり、ナウシカに要求する。しかし、ナウシカはその要求とは真逆にその知恵を「巨人兵」とともに破壊した。そうして、物語は終わる。

この「風の谷のナウシカ」は「生命」について取り上げている。私たち、現代の技術は日々、発展している。しかし、それにより絶滅してしまった、あるいは絶滅寸前の生物たちが存在し、異常気象や地球温暖化などの環境にも影響を与えてしまっている。これから、私たちの技術は素晴らしいほどに発展していくだろう。しかし、よくよく考えてほしい。「風の谷のナウシカ」のように、発展しすぎてしまった人々は、世界を再生するために純粋な世界にしようと、ナウシカたちの時代やオームたちを作り出してしまったことを。

私たちは、ナウシカの昔の人々と同じことを繰り返さないために、もっと地球や生物のことを考えなければならない。そして、現在起こり始めている異常の問題解決や絶滅寸前の生物たちと反対に今、繁栄している生物たちを守り、私たち、人間の技術とどう、共存していくのか。それが、この作品から学び得ることだろう。

皆さんも小さいことからでいいから、「環境」、「生物」を大切にしていこう。そうすることで、私たち人は、「命あるもの」に感謝をすることにもつながるはずだ。